「김밥（gimbap）」はなぜ「キンパ」として定着したのか

――韓国料理名のカタカナ表記に見られる「ゆれ」についての一考察――

稲　川　右　樹

帝塚山学院大学リベラルアーツ学部准教授

Abstract: The purpose of this study is to examine the variety of katakana notations for “김밥（gimbap）” the Korean rice roll. In Japan today, “김밥” is most commonly written as “キンパ（kinpa）”. However, this trend has been major since the 2010s. Prior to that, it was often written as “キムパプ（kimupapu）” in books and on the Internet. The generalization of the notation “キンパ” seems to be related to commercial reasons. From the latter half of the 2010s, products labeled “キンパ” became available at convenience stores and supermarkets, and became visible to many consumers. The reason why food manufacturers adopted the notation “キンパ” instead of “キムパプ” may be related to the fact that the name “キンパ” has been used for a long time in Zainichi（Permanent ethnic Korean residents of Japan）community in Japan.

キーワード：外来語，カタカナ表記，韓国語，韓国料理

1. はじめに

本研究は、韓国語教育者である筆者が生活の中で感じたある違和感に端を発する。

2003 年の「冬のソナタ」をきっかけとして始まった「韓流ブーム」は一過性のブームに止まることなく一つのカルチャーを形成するに至った。以降 18 年が経過し、韓国の文化は日本人の生活の中に様々な形で溶け込むこととなった。韓国の食文化はその代表格である。様々な韓国料理が日本の食卓に持ち込まれたが、その多くは「サムギョプサル（삼겹살）」「チーズタッカルビ（치즈닭갈비）」など韓国語をカタカナ表記した形で定着している。

図 1. 日本で「キンパ」として販売されている商品の例[1)]

その一つに韓国風海苔巻きがある。海苔巻きはハングルでは「김밥[2)]」と表記される。現在一般的な英語表記は「gimbap」であるが、実際の音声は［kimppab］に近い[3)]。これが、近年の日本において「キンパ」というカタカナ表記で商品化されることが多くなった。

韓国語では音節が「VC」あるいは「CVC」のように閉音節（子音）で終わることがあり、音節末の「C」を「パッチム（받침）」と呼ぶ。「김밥」という単語には一文字目に「ㅁパッチム」が、二文字目に「ㅂパッチム」が使われている。これらは音声学的にはそれぞれ両唇鼻音の［m］と内破両唇音の［p˺］に該当する。しかし「キンパ」というカタカナ表記にはこのパッチムの音価が十分に反映されておらず、特に「ㅂパッチム」については完全に消失した形となっている。そもそも音韻体系の異なる言語の音声をカタカナ表記で完全に表すことは韓国語に限らず不可能だが、韓国語教育者の感覚では「김밥」というもともとの発音と「キンパ」というカタカナ表記の間には激しい乖離を感じずにはいられなかった。

パッチムを活かしつつ「김밥」をカタカナ表記する方法としては「キムパプ」「キンパプ」など複数の候補があり、そのように表記されている書籍も多い。しかし、3 章で後述するとおり現在の日本においては「キンパ」が最も一般的な表記として市民権を獲得しつつある。ただ、同様の「ㅂパッチム」消失現象は「ビビンバ（비빔밥）」「クッパ（국밥）」など、「～밥」つまり「～飯」の形態を持つ韓国料理の呼称にも例がある。本研究は、「김밥」が「キンパ」として定着した経緯と原因を探ることを通して、現代の日本において見られる韓国料理名のカタカナ表記のゆれについて考察することを目的とする。

2. 外来語表記の基準

日本は古来から海外との交流を通して新しい文物を積極的に取り入れてきた。文物と共に新たな概念を表す外国語ももたらされた。日本人はそれらの「外国語」を「外来語」として日本語の中に消化し、自らの言語生活の中に取り入れてきた[4)]。まず古代から中世にかけては、文明語としておびただしい量の中国語（漢字語）がもたらされた。そして戦国時代から近世にかけては「シャボン」や「カルタ」などのポルトガル語、オランダ語由来の言葉が入ってきた。そして、文明

開化の時期には国家レベルの西洋文化受容の流れのなかで、英語を始めとする多くの外来語が日本語の中に取り込まれていった。しかし、これらの表記についての公式な基準は長らく存在せず、「シネマ」と「キネマ」など、多くのゆれが発生することとなった。

これらのゆれを解消すべく、外来語表記について体系的な基準づくりの試みが始まったのは、戦後に入ってからのことである。まず、1954 年に国語審議会により「外来語表記の原則」としてまとめられた。さらに 1979 年には教科書研究センターから「地名表記の手引き」が発表された。これら二つを総合し改善する形で 1991 年に発表されたのが内閣訓示第二号「外来語の表記」であり、これが現在にいたるまで日本における外来語表記の根拠となっている。その前書きは以下のようになっている。

1. この『外来語の表記』は，法令，公用文書，新聞，雑誌，放送など，一般の社会生活において，現代の国語を書き表すための「外来語の表記」のよりどころを示すものである。
2. この『外来語の表記』は，科学，技術，芸術その他の各種専門分野や個々人の表記にまで及ぼそうとするものではない。
3. この『外来語の表記』は，固有名詞など（例えば，人名，会社名，商品名等）でこれによりがたいものには及ぼさない。
4. この『外来語の表記』は，過去に行われた様々な表記（「付」参照）を否定しようとするものではない。
5. この『外来語の表記』は，「本文」と「付録」から成る。「本文」には「外来語の表記」に用いる仮名と符号の表を掲げ，これに留意事項その 1（原則的な事項）と留意事項その 2（細則的な事項）を添えた。「付録」には用例集として，日常よく用いられる外来語を主に，留意事項その 2 に例示した語や，その他の地名・人名の例などを五十音順に掲げた。

前書きを見ればわかるとおり、「外来語の表記」は何らかの拘束力を持つ「規則」というよりは、あくまでも利便性のための「目安」としての性格が強い。そのため、実際の使用については使用者の感覚が優先されており、依然として多くの表記上のゆれが存在する一因ともなっている。放送局や新聞社などでは、「外来語の表記」をもとにそれぞれ独自の外来語表記のハンドブックを作成していることが多い。例えば NHK は、「原音とは異なる慣用が熟しているものは、慣用の形を尊重する」ということを原則として、『ことばのハンドブック』を作成し、放送上における拠り所としている[5)]。

2. 1. 英語由来の単語

外国語表記のゆれについて、まずは英語由来の単語について見ていくことにする。英語由来の単語が現在日本語に取り込まれて使用されている外来語のうち最も大きな比率を占めることは、

改めて言及するまでもないであろう。外来語および和製英語の研究家であるジェームス・スタンローは日本語の「日常言語に占める英語の割合が10パーセントにもなる」と述べており、また、岩波国語辞典第三版に収録されている外来語のうち約80パーセントが英語起源であるという統計もある[6)]。

前述したとおり、文明開化とともに多くの英語由来の外来語が日本にもたらされたが、それまでの日本語の音韻体系には存在しなかった［æ］［θ i］［fa］などの音声をどのように表記すべきかについて明確な基準がなかったため、さまざまな表記上のゆれを発生させることとなった。1991年に内閣府から「外国語の表記」が発表され、ある程度の基準が定められたものの、依然として英語表記のゆれは多く残っている。

松崎（1993）は、「トゥ」と「ツ」の対立など、17種の辞書類の外来語表記を調査し、ゆれをグラフ化した。その結果、ある拍が外来語よりか日本語よりかは語によりかなり異なることが数量的に確認された。その上で、近年の外来語表記のゆれの背景として、日本語音→外来語音へと向かいつつある「原音主義」があると指摘した。

小椋（2013）は『現代日本語書き言葉均衡コーパス』のコアデータ②を資料として、そこに収録された新聞・雑誌・書籍・白書・ウェブの五つの媒体を対象に、より現在に近い時期における外来語表記のゆれの実態を明らかにするための調査を行い、その結果として英語由来の外来語表記のゆれには「モニタ」と「モニター」など「語末長音の有無」が最も多いことを明らかにした。

2. 2. 韓国語由来の単語[7)]

一般の日本人が最も多く触れるカタカナ表記された韓国語由来の単語は、長らく人名や地名などの固有名詞が主であった。1902年11月、当時の文部省が答弁として「中国・朝鮮の場合は従来の漢字表記・日本語音読みの慣用をとる」というルールを定めた。戦後に入ると中国・韓国の人名・地名について、原音読みを原則とする気運がNHKなどのマスコミを中心に起こった。文部省もそれらマスコミの動きを受け、1949年8月1日に国語審議会において、教科書での中国・韓国の人名・地名の扱いが原音読みに変更された。しかし、1950年の朝鮮戦争勃発により、原音読みのカタカナ表記と漢字の並列表記が見にくいということになり、マスコミ各社はもとの漢字表記・日本字読みに戻すこととなった。その後、1965年に日韓国交正常化が成ったのちも長らくその状況が続いていたが、1984年韓国の全斗換大統領が来日し、日本の政府高官たちとの会談の席上、両国の要人の名前を「相互主義」の原則のもとお互いに現地読みすることで合意し、現在に至っている[8)]。『NHKことばのハンドブック第2版』（2006）から、韓国の人名・地名についての記述を以下に抜粋する。

(1) 韓国・北朝鮮の在住者の人名は、原則として「原音読み、カタカナ表記」とする。……ただし、漢字を併記することが視聴者の理解を助けると判断される場合は、漢字をカッ

コ入りで併記する。

⑵　在日韓国・朝鮮人の人名は、原則として「日本語読み、漢字表記」とする。ただし、以下の場合は例外措置として、「原音読み、カタカナ表記」とし、必要に応じて漢字表記（カッコ入り）、日本語読みを併用する。

〈例外〉

①　本人が希望した場合。

②　日本の公的機関が「原音読み」で発表した場合。

③　国際的な会議、スポーツ大会、行事などの参加者で、主催者が「原音読み」で発表した場合。

④　「原音読み」の名前で活躍している、著名な作家、学者、芸能人、音楽家などの場合。

⑤　NHK がニュース、番組の放送にあたって、企画意図や演出上の理由などから「原音読み」にしたほうが適当と判断した場合。

⑶　韓国・北朝鮮の地名は「原音読み、カタカナ表記」とする。ただし、漢字を併記することが視聴者の理解を助けると判断される場合は、漢字をカッコ入りで併記する。

例　パンムンジョム（板門店）

しかし、「外来語の表記」『NHK ことばのハンドブック第２版』いずれにおいても、「原音読み」についての明確な基準、韓国語のどの音価をどのカナに対応させるかについては具体的な対応表を見つけることができなかった。そこで、NHK で実際に使用されている韓国語のカタカナ表記例を元に基準を下記のとおりまとめた。

表 1．NHK で採用されている韓国語のカタカナ表記基準

単母音

ハングル	ㅏ	ㅣ	ㅜ，ㅡ	ㅐ，ㅔ	ㅓ，ㅗ
カタカナ表記	ア	イ	ウ	エ	オ

重母音[9)]

ハングル	ㅑ	ㅠ	ㅕ，ㅛ	ㅘ	ㅟ	ㅚ，ㅙ，ㅞ	ㅝ
カタカナ表記	ヤ	ユ	ヨ	ワ	ウィ	ウェ	ウォ

平音[10)]

ハングル	ㄱ	ㄴ	ㄷ	ㄹ	ㅁ	ㅂ	ㅅ	ㅇ	ㅈ
カタカナ表記	カ行（ガ行）	ナ行	タ行[11)]（ダ行）	ラ行	マ行	パ行（バ行）	サ行	ア行	チャ行（ジャ行）

激音

ハングル	ㅊ	ㅋ	ㅌ	ㅍ	ㅎ
カタカナ表記	チャ行	カ行	タ行	パ行	ハ行

濃音

ハングル	ㄲ	ㄸ	ㅃ	ㅆ	ㅉ
カタカナ表記	カ行 （ッカ行）	タ行 （ッタ行）	パ行 （ッパ行）	サ行 （ッサ行）	チャ行 （ッツチャ行）

パッチム

ハングル	ㄱ，ㅋ，ㄲ， ㄳ，ㄺ	ㄼ，ㄿ，ㅂ， ㅄ，ㅍ	ㄷ，ㅌ，ㅈ， ㅊ，ㅅ，ㅆ，ㅎ	ㅁ，ㄻ	ㄴ，ㄵ，ㄶ，ㅇ	ㄹ，ㄽ，ㄾ，ㅀ
カタカナ表記	ク	プ	ッ（促音）	ム	ン	ル

破裂音パッチムの扱いに関しては、その調音点によって軟口蓋音は「ク」、両唇音は「プ」、硬口蓋音は「ッ」とされている。また、連音化（例：연아→ヨナ）、鼻音化（例：대학로→テハンノ）、流音化（例：신라→シルラ）などの韓国語の音韻規則も概ね反映されているようである。これらの基準に照らし合わせた場合、本研究の対象である「김밥」はNHKでは「キムパプ」と表記されることが予想される。

3.「김밥」について

3. 1.「김밥」の音声的特徴

まず今回のテーマである「김밥」がどのような音で構成されているのかを見ることとする。従来、韓国の国立国語院制定の標準語では長音と平音で「김：밥 /gi:m bab/」のみが正しい発音であったが、2016年11月に長音と濃音の「김：빱 /gi:m βab/」も標準語の発音に定められた[12)]。ただし、2003年の調査によると、実際に広まっている発音は標準語圏では60代以上を除き、単音と濃音の「김빱 /gim β ab/」が多数派を占めた。

韓国語音韻論的観点からは「김밥」は「김」を構成する「ㄱ」「ㅣ」「ㅁ」、そして「밥」を構成する「ㅂ」「ㅏ」「ㅂ」の6音素から成り立っている。それぞれの音声的特徴を下記にまとめる。

表 2.「김밥」を構成する各音素の音声的特徴

	分類	音声的特徴
ㄱ	初声（子音）	音韻上は /g/ として認識されるが、語頭では無声音化するため実際の音声は［k］であり、日本語話者には「カ行」として聞こえる。
ㅣ	中声（母音）	音韻上は /i/ で実際の音声は［i］である。日本語話者には「イ」として聞こえる。
ㅁ	終声（パッチム）	音韻上は /m/ として認識される。実際の音声も［m］である。両唇を閉鎖したまま鼻から音を響かせる。日本語話者には「ム」として聞こえることが多いが、両唇音の直前の「ン」も同様の音声であるため、「ン」として認識される可能性もある。

ㅂ	初声（子音）	音韻上は /b/ として認識されるが、「김밥」では濃音化して［ˀp］として発音されることが多い。日本語話者には「パ行」として聞こえることが多い。
ㅏ	中声（母音）	音韻上は /a/ で実際の音声は［a］である。日本語話者には「ア」として聞こえる。
ㅂ	終声（パッチム）	音韻上は /b/ として認識されるが、両唇を閉鎖して音を止める内破音であり、実際の音声は［p̚］である。ただし、直後に母音がくる場合は有声化して解放されるため［b］となる。

3. 2.「김밥」表記のゆれ

続いて「김밥」をカタカナ表記する上で、ゆれを引き起こす要素とその候補について見ていく。韓国語と日本語の音韻上の差を考慮したとき、ゆれを引き起こす要素は次の２点に集約できる[13)]。

1.「김」の「ㅁパッチム」の扱い
2.「밥」の「ㅂパッチム」の扱い

まず、「김」の「ㅁパッチム」の扱いであるが、カタカナ表記した際の候補としては①「ム（キム）」と②「ン（キン）」が考えられる。そして「밥」の「ㅂパッチム」の扱いであるが、カタカナ表記した際の候補としては③「プ（パプ）」、④「ブ（パブ）」、⑤「ップ（パップ）」、⑥「ッブ（パッブ）」、⑦「ッ（パッ）」、⑧「脱落（パ）」の６種類が考えられる。それぞれの表記が選択される際に反映されている考え方をまとめると次のようになる。

表 3.「김밥」をカタカナ表記する際の候補と、それぞれに反映されている考え方

		カナ表記	反映されている考え方
김	①	キム	「ㅁパッチム」＝「m」であるという考えを反映
	②	キン	両唇音が後続するときの「ㅁパッチム」は「ン」として聞こえる現象を反映
밥	③	パプ	「ㅂ」の原則的音価を［p］であると考え、それを「プ」と表記する考え方を反映
	④	パブ	「ㅂパッチム」に母音が連続した場合に有声音［b］として発音される現象を考慮し「ブ」と表記する考えを反映
	⑤	パップ	「ㅂパッチム」を「p」とした上で、英語の語末短母音［p］と同様の扱いを反映（例：top → トップ）
	⑥	パッブ	「ㅂ」を一律に「b」とした上で、英語の語末短母音［b］と同様の扱いを反映（例：fob → フォッブ）
	⑦	パッ	破裂音を調音点によって区別せず一律に促音「ッ」として表記する考えを反映（韓国農林水産部の考えと一致）
	⑧	パ	日本語の音韻に存在しない閉鎖音を省略するという考えを反映

これらのうち①や③～⑥は日本語の音韻に存在しない「ㅁパッチム」や「ㅂパッチム」などの韓国語の音韻的特性をカナに反映させようという意識が反映された表記であると言える。さらに

そのこだわりがより強いものとして、「ム」「プ」を小文字や半角で表記する表記も散見される。その反面、②や⑦や⑧はその意識が弱い。その観点から見ればこれらの候補のうち、元のハングルの音価をカタカナにも反映しようという形態主義的こだわりが最も弱く、その分日本語ネイティブにとって最も発音しやすい形態であると言える。

3. 3. 公的機関の見解

韓国農林水産食品部（以下「農食品部」）は2009年11月5日に「韓食メニュー標準表記案（以下「表記案」）」を発表した。マスコミ向けの説明文に記載されたその趣旨を以下に抜粋する[14)]。

- 農林水産食品部は外国人の韓食へのより簡単で正確な理解のため、国内外の韓食食堂で提供されている、外国人向け人気メニューに対する外国語（英語・日本語・中国語）表記案を準備したと発表した。
- 今回の韓食メニュー表記案は、文化部、外交部、韓国観光公社、国際交流財団など関連機関が協力・推進したものであり、国立国語院のローマ字表記諮問機関と、食物、調理、外国語専門家により構成された専門家委員会の検討作業を経て完成した。※韓食メニュー外国語表記（124項目）：付録参照
- 外国語表記案は韓食食堂の運営者と外国人のためのものであり、124種の料理の写真、料理名称、主材料、添えられるスープやタレなどの内容を含む。

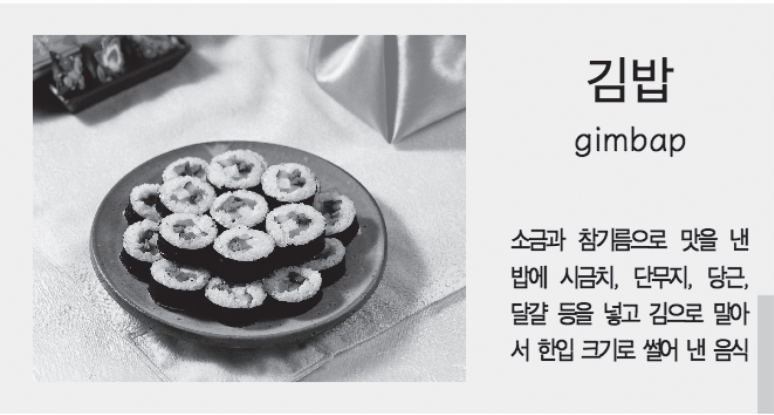

図2. 韓国農林水産部発表の韓食メニュー標準表記案の中の「김밥」

図2は、表記案内の김밥の写真である。アルファベット表記が“gimbap”となっていることがわかる。김밥に関する日本語の記述は下記のとおりである。

キムパッ（韓国式のり巻き）
塩とごま油で味つけしたご飯にほうれん草、たくあん、にんじんや卵焼きなどをのせ、のりで巻いた料理。一口サイズに切って食べる。

農食品部の表記では「キムパッ」となっている。すなわち、「ㅁパッチム」は「ム」に、そして「ㅂパッチム」は促音「ッ」として表記されている。表記案の他の料理名を見ると、「잣죽（jatjuk）」が「チャッチュッ（松の実のお粥）」、「영양돌솥밥（yeongyang-dolsotbap）」が「ヨンヤントルソッパッ（栄養釜飯）」と表記されていることから、破裂音である「ㄱ，ㄷ，ㅂ」のパッチムは、その調音点の如何を問わず、促音「ッ」表記に統一されていることがわかる。

3. 4. 書籍・雑誌における表記

書籍や雑誌などの出版物において「김밥」はどのようにカタカナ表記されてきたのだろうか。本研究では、1987 年から 2021 年まで日本で発行された 65 冊の書籍・雑誌を対象に調査を行った[15)]。その結果、2002 年から 2021 年までに発行された 43 冊の書籍・雑誌において 56 件の「김밥」関連のカタカナ表記を見つけることができた[16)]。表記のバリエーションは「キムパプ」「キンパッ」「キンパップ」など 16 種類に上った。3.2. では「ㅁパッチム」に関して 2 通り、「ㅂパッチム」に関して 6 通り、合計 12 通りの表記ゆれの可能性があることを述べたが、それより多くなったのは「韓国風海苔巻き[17)]」を集計に含めたこと、そして「ム」や「プ」などパッチム表記に小文字や半角文字を使用した例を別途カウントしたためである。その結果をグラフにまとめたものが図 3 である。

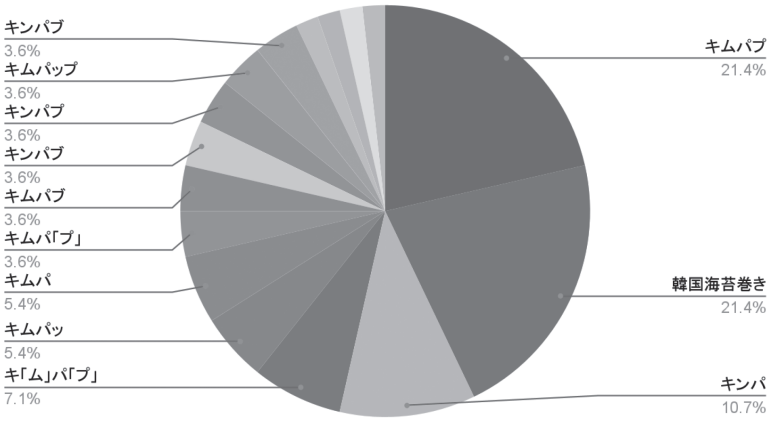

図 3. 書籍・雑誌における「김밥」カタカナ表記比率

最も多いのは「キムパプ」と「韓国海苔巻き」であり、それぞれ12件あった。次に「キンパ」が6件、そして「キ「ム」パ「プ」」[18]、「キムパッ」と続いた。現在、世間一般において主流となりつつある「キンパ」表記だが、書籍・雑誌全体から見ると1割ほどしかなく、むしろ少数派であるように見える。しかし、発行された年代を区切って見るとまた異なった傾向が見えてくる。

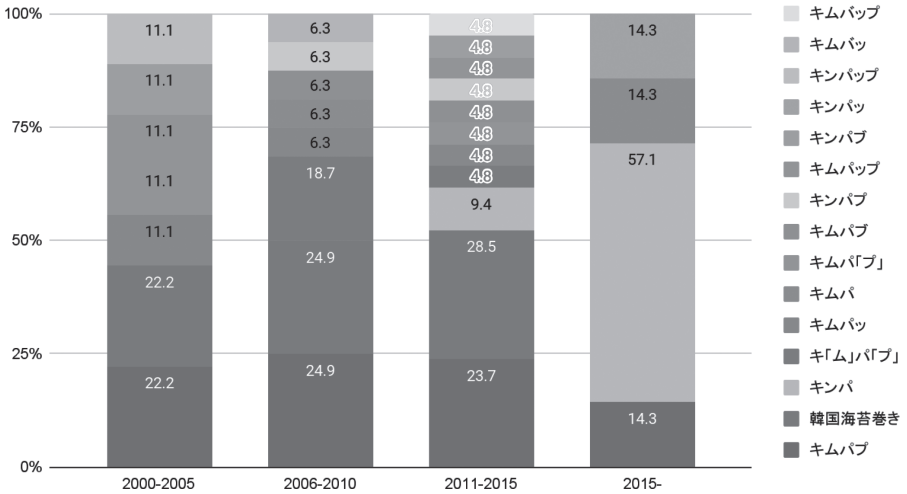

図4. 年代別に見た書籍・雑誌上の「김밥」カタカナ表記（数値は%）

図4は、今回調査対象とした43冊の書籍・雑誌を発行された発行された年代別に「2000年～2005年（7冊9件）」「2006年～2010年（12冊16件）」「2010年～2015年（16冊21件）」「2015年以降（7冊7件）」の4つに分けたものである。書籍・雑誌の数が増えるにつれ、カタカナ表記の種類も増加していることがわかるが、「キンパ」表記は初期の2000年代には一件も使われていない。「キンパ」表記が初めて確認できたのは2012年発行の『おうちで本格韓国料理』（東京書籍）である。しかし、2015年以降のデータでは様相が一変する。それまで少数派だった「キンパ」表記が過半数を占めるようになるのである。つまり、この時期に「キンパ」表記が急速に一般化したと言える。また、「キンパ」表記を掲載している書籍・雑誌の種類を見ると『GINZA』『SAVVY』などのファッション誌や、一般向けのいわゆる「お弁当本」など、韓国・韓国語の専門家以外の手によって書かれたものが多いことが特徴である。

3.5. インターネット上の表記

続いて、ここではインターネット空間における「김밥」のカタカナ表記について見ていく。本研究ではまず、韓国料理について多くの情報を提供している最大手日本人向け韓国情報サイトである「ソウルナビ（2000年開設）」と「コネスト（2005年開設）」、そして日本を代表する韓食フ

ードコラムニストとして、20年来韓国の食文化を日本に紹介してきた八田靖史の運営する「韓食生活（前身の「コリアうめーや！」2001年開設）」の3つを選定し、それぞれ「김밥」がどのように表記されているかを見る[19]。

まず「ソウルナビ」の事例を見ると、記事中では原則として「キンパッ」表記を基本としているが、一部「キンパ」「キムパプ」などの混用も散見される。次に「コネスト」の事例を見ると、記事中では原則として「キムパッ」表記を基本としている。「ロパッチム」の扱いに相違が見られるが、3.2で提示した考え方に照らし合わせると、「ソウルナビ」は「日本語話者の耳に聞こえる音により近い」表記を採択し、「コネスト」は「ロパッチム＝ム」とするより形態主義的な考え方を反映した表記になっているといえる。「ㅁパッチム」の扱いについては両サイトとも、促音「ッ」として表記している。「コネスト」の表記は3.3.で示した韓国農林水産食品部の考え方とも一致するものとなっている。

「韓食生活」の「김밥」表記については、管理人の八田が2009年11月9日の記事において発表した「濁音化（有声音化）の扱い」「激音および激音化の扱い」など、10項目からなる「韓国語のカタカナ表記分類表案」が参考になる。本稿ではその第2項目「「k」「r」「m」「p」パッチムの扱いを決める」の記述を以下に抜粋する。

A：「ク」「ル」「ム」「プ」と表記する
B：文字のサイズを小さくして「ク」「ル」「ム」「プ」と表記する
C：文字を半角にして「ｸ」「ﾙ」「ﾑ」「ﾌﾟ」と表記する
D：文字を半角にしてカッコでくくり「(ｸ)」「(ﾙ)」「(ﾑ)」「(ﾌﾞ)」と表記する
E：アルファベットを用い「k」「r」「m」「p」と表記する
〈追加要素〉
a：「k」の表記を「ッ」と表記する
b：「r」パッチムの後に「ㄹ」が続く場合にのみ省略して表記する
c：「m」の表記を「ン」と表記する
d：「p」の表記を「ッ」と表記する
（韓国農林水産食品部表記では「A-ad」、八田表記では「A」

この基準に従って、八田は自らのコラムで「キムパプ」表記を使用してきた。しかし、2020年11月29日自身のTwitterアカウント@kansyoku_nikki（アカウント名：八田靖史@新刊『韓食留学1999』好評発売中）で次のようなツイートをしている。

韓国料理の名前を日本語で表記する場合、自分の中で一応のルールを決めてあるんだけど、日本語として周知されたと判断したものはそちらに従うようにしている。マッコリ、プルコ

ギ、チヂミ、ブルダック、チーズタッカルビなど。そろそろ変える時期かもなぁと覚悟を決めつつあるのが、キンパ。3：49pm・19 Nov・2020

そして、翌 2021 年 1 月 5 日に上記のツイートを引用 RT する形で、次の内容をツイートしている。

あ、そうそう。事後報告になりますが、昨年末あたりから「김밥」の表記を、これまで使っていた「キムパプ」から「キンパ」に変更しました。「ビビンバ」や「マッコリ」のように、日本での用法として優勢になったとの判断です。3：50pm・5 Jan・2021

実際に 2020 年の年末から八田は自らの発信する記事やツイートの中で「김밥」を「キンパ」と表記するようになった。八田自らも述べているように「キンパ」表記が「日本での用法として優勢になった」と判断したからである。日本における韓国料理コラムニスト第一人者である八田の「キンパ宣言」も持つ象徴的意味合いは非常に大きいと言える。これで「キンパ」は晴れて専門家による「お墨付き」を得たと言っても過言ではない。また、八田は自らの韓国料理のカタカナ表記法について、ある程度のゆれが発生してしまっていることを認めつつ、以下のようなツイートもしている。

ある程度の目安は必要だけど、杓子定規に型を作ろうと思うと無理が出てくる。多少の揺れは許容しつつ、状況を見ながら少しずつ修正を加え、ときにやらかしたと反省もしながら、何度となく手を入れてできあがったのが現状の表記。もちろん今後も調整を加えるはずなので、突然変わったとしてもご容赦を。12：58・31 Au・2021

3.4. で述べた通り、書籍・雑誌の世界において「キンパ」表記は 2010 年代以前には少数派であったが、2015 年以降急速に一般化した。これは、八田が「日本での用法として優勢になった」として「キンパ」宣言をした時期と重なる。

「김밥」のカタカナ表記としての「キンパ」が「キムパブ」や「キムパッ」などを抑えて、勢力を伸ばした時期を把握するために、Google トレンドで「キムパブ」「キムパッ」「キンパッ」「キンパ」のトレンド指数を、検索可能な最大範囲である 2004 年から 2021 年現在まで比較調査してみたものが図 5 である。

他の表記に比べて「キンパ」表記が圧倒的に優勢であることが一目瞭然である。特に 2010 年代の中盤ごろから検索数が急激に伸び、他の表記との差が広がっているように見える。八田の「キンパ宣言」はまさにこの驚異的な伸びの渦中において行われたことがわかる。なお、毎年 2 月になると「キンパ」検索数が一時的に大きく増える現象が見られるが、八田はこれは節分の時期に

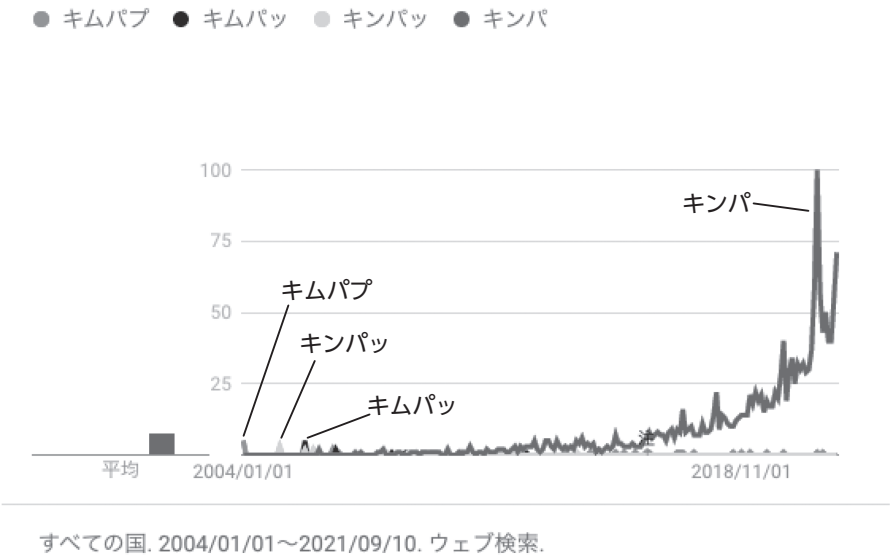

図 5. 2004 年から現在までの「김밥」カタカナ表記の傾向

「恵方キンパ」が話題になることと関連しているのではないかと述べている[20]。一方グラフの左端、2010 年ごろまでを見ると、(絶対的な検査数が少ないものの)「キンパ」以外の表記も健闘している様子が伺い知れる。この時期の様子をさらに詳細に観察するため拡大したのが図 6 である。

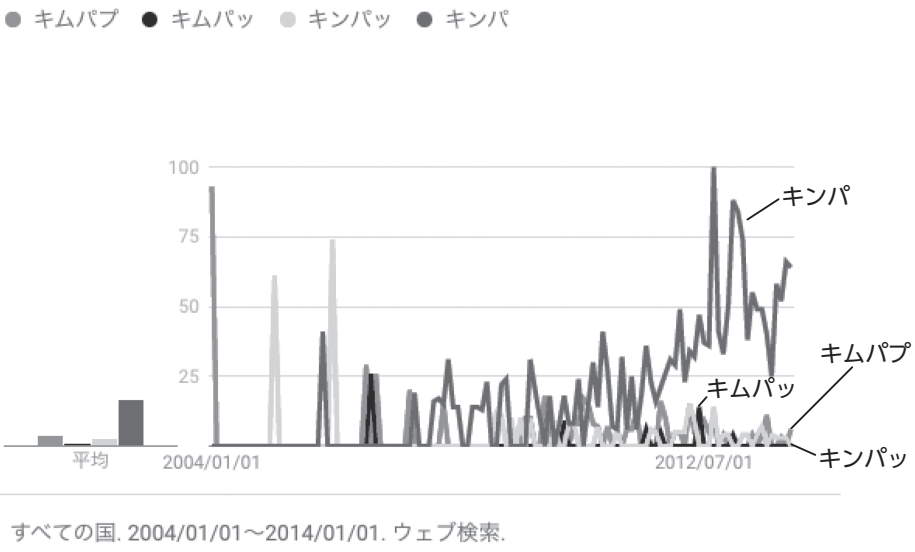

図 6. 2004 年から 2014 年までの「김밥」カタカナ表記の傾向

2010年代に入るまでは、「キムパブ」「キムパッ」「キンパッ」「キンパ」の使用率の差は比較的少ないことがわかる。2012年ごろから「キンパ」表記がその他の表記を凌駕するになり、2010年代中旬から後半にかけてその差が決定的なものとなっていく。

その背景として八田は「新大久保ブーム」があるのではないかと推察する。2003年のいわゆる「ヨン様ブーム」に端を発する日本の韓流ブームは、そのファン層や性質によっていくつかの時期に分類される。2010年代中旬から後半にかけての時期は、「新・韓流」あるいは「第3次韓流ブーム」と呼ばれる時期に当たる。この時期の韓流ブームの特徴は、地上波からSNSへ、中高年層から若年層へその中心が移ったことにある。韓国発のコンテンツを「受動的に」受け入れていた既存の韓流ブームと違い、若者が韓国のコンテンツを「オシャレでカワイイ」ものとして自分の生活の中に取り入れ、その姿をSNSで発信するようになった[21)]。その中には韓国の食文化も含まれる。韓国風のカフェや食堂で提供されるメニューが「映える」コンテンツとなり、それらを手軽に楽しめる街として東京を代表するコリアタウンである新大久保に多くの若者が押し寄せるという現象が生まれた。JR東日本が2018年に発表した「2017年度1日あたりの駅別乗車人員ランキング」によれば、新大久保駅の前年比の乗客数伸び率は9.8%で第1位であったことからもその人気ぶりを窺い知ることができる。中でも若者が手軽に楽しめる軽食系は人気を博し、その一つとして「김밥」を提供する店舗が増えていった。また八田は「キンパ」の普及に当たっては2015年にオープンした「カンナムキンパ[22)]」がエポックメイキング的な役割を果たしたのではないかと述べている。

新大久保に端を発する「キンパ」人気を受けて、2018年には無印良品が、2019年にはセブンイレブンがそれぞれ「キンパ」表記で韓国風海苔巻きを商品化する。これにより、韓国に特に興味を持っていなかった層の目にも付くこととなり、「キンパ」表記の一般化が一気に進んだと推察できる。

3.6. 在日コリアン社会における呼称

2010年代中盤ごろから「キンパ」表記が一般的になったことはわかったが、ではそれ以前の文献にはほとんど登場しない「キンパ」という呼び方はどこから来たのだろうか。研究を進めるうちに、大阪でキムチ製造・販売業を営む在日コリアンのH氏[23)]から「我が家では昔から『キンパ』と呼んでいた」という情報がTwitterのダイレクトメールを通じて寄せられたため、より詳細な情報を知るため、H氏との対面インタビューを行った。その中で「キンパ」呼称について下記の証言を得ることができた[24)]。

> H：鶴橋、その生野区の在日の中では、もう気づいたときには、そういうキンパ屋さんてのがあって、そのキンパ屋さん、もしくは僕たちのキムチ屋さんに、キンパって言う、その商品が並べられていて、それの表記はキンパの表記で売られてて、もうそこは固定で認知はさ

れていっているんだと思います。

筆者：あの、ご家庭でキンパって言う言葉で呼ばれてたと言う事ありますか。

H：そうですね。だから印象、すごいキンパで印象あるのは、韓国の小三の時かな？韓国に行くときのお弁当がキンパやって、それで腐ってて、腐ってたから余計に印象に残ってるんですけど、あの時に一番記憶遡ったときに、このキンパがあったのは小三の時には、弁当として出てきたんで、その時には普通にキンパって言う3文字で認識してました。

筆者：お母さんがそういう言葉使ってたってのはありますか

H：それはあると思います。だからお母さんキンパって言ってました。お母さんは一世ですけどお母さんの場合ちょっと特殊で、あのどうしても一世の人って、すごい訛りの日本語になりますよね。はい、うちの父の場合はもう日本語がすごく訛りがきつくて、韓国語も鈍ってるけど日本語も訛ってて、一言しゃべるとこの人在日の人やなって分かるくらいの訛りなんですけど、母の場合は3歳までいてた影響なのか、すごい日本語も普通に訛りなしで喋れて、韓国語も普通にしゃべるタイプの人間で、特にこの訛りというか意識しないですけど、あのキンパであり、だから今で言ったらビビンバであり、あのヤンニョンって言う形の単語でしたね。

H氏の証言によると、30年以上前に在日コリアンの間で「김밥」を「キンパ」として認識していたことになる。これが特殊な例である可能性を考え、筆者は全国の在日コリアンのTwitterユーザーに向けて「幼い頃あなたの家庭では『김밥』を『キンパ』と呼んでいましたか」と呼びかけ、複数の回答を得ることができた。神奈川、埼玉、愛知、石川、大阪、京都など各地から「キンパ」と呼んでいたという回答を得た。出自が済州島以外である回答者も多く、これがH氏の母親のように済州島出身者に特有の呼称ではないことがわかった。回答者の年齢がまちまちなため、いつごろからの現象かは厳密に検証できないが、総合すると少なくとも30～40年前には「キンパ」という呼称が在日コリアン社会を中心に存在したことは間違いないという結論に達した[25)]。

在日コリアン社会における韓国語使用は家庭環境や教育方針によって差が大きいが、全体として代を重ねるごとに日本社会・日本語への順応が進み、韓国語が使われなくなる傾向にある。しかし、その中でも食生活に関する語彙に関しては、比較的多くの語彙が残されている。ただ、日本生まれの在日コリアンは韓国語の音韻をそのまま再現するのではなく、「日本語のフィルター」を通して、つまりは日本語の音韻に再構築されたカタカナ発音を使用している[26)]。金由美（2005）には、在日2・3世が使用している食生活に関する語彙として「クッパ（국밥 /kukbap/）」「ビビ

ンバ（비빔밥 /pibimbap/）」など38語が例示されている。「クッパ」と「ビビンバ」は米飯に関連する料理であり語末に「밥 /bap/」が来る点で「김밥」と共通しているが、いずれにおいても「ㅂパッチム」は脱落している。「ㅂパッチム」が脱落する理由としては、2つ考えられる。まず、日本生まれの在日2世以降の世代は多くの場合日本語を第一言語としているため、韓国語の単語を日本語の音韻体系のフィルターを通して受容する。その過程で内破音である「ㅂパッチム」は「存在しない音」として認識され脱落する。特に民族教育を受けずに、ハングルについての知識がないまま音声のみで韓国語が継承される場合は「ㅂパッチム」の存在そのものに気づかないこともあり得る。もう一つは、飲食店を経営している在日コリアンの場合、最も優先されるのは、顧客である日本語話者がその商品名をできるだけ簡単に発音できることであり、その過程で日本語の音韻にない「ㅂパッチム」を脱落させたというものである。上記の事項を考慮すると、「김밥」もまた、在日コリアン社会において「キンパ」と発音され、認識されるようになったのは自然な流れであると思われる。

4. 考察

外来語表記にゆれがある場合に、どの表記を選択するかは使い手の「信念」によって傾向の差があるとされる。単＆白勢（2009）は日本語書き言葉均衡コーパスにおける外来音に対応する仮名の表記をジャンルによる出現の様相の相違について比較検討したが、その結果「ヴァイオリン」と「バイオリン」という揺れについて、「ヴァイオリン」については、「芸術・美術」という特定のジャンルの記事に多くみられたのに対し、「バイオリン」は各ジャンルに平均的に分布されていることがわかった。つまりその分野についての「思い入れ」や「専門性」が高いほど特殊で複雑な表記を好み、それ以外の多くの人はよりシンプルな表記を選択する傾向があるとも言えよう。これを「김밥」に当てはめた場合、一般の消費者にとってまだ「김밥」が現在ほどメジャーではなかった2010年代以前、この食べ物についての語り手は、韓国料理研究家や韓国文化に造詣の深いライターなど、韓国語について一定の知識を有する者であることが一般的であり、そのため「ロパッチム」「ㅂパッチム」をカタカナ表記にも反映しようというモチベーションが高かった。しかし、2010年代以降の新たな韓流ブームによって、「김밥」が韓国語の素養がなく、韓国そのものにも思い入れが薄い一般の日本人の間にも浸透するにつれて、原音を正しく反映することよりも、発音のハードルが低い呼称・表記が求められたものと考える。

「김밥」が「キンパ」として定着するようになったプロセスとしては、次の二つが考えられる。

1. 「김밥」のよりシンプルな表記として2010年代に「キンパ」が新たに生まれ、商品名として採用された。
2. 在日コリアン社会の一部で古くから使われていた「キンパ」が商品名に採用された。

上記２つの可能性のうち、筆者は２の方がより有力だと考える。まず第一に、韓流ブーム以降の日本において「ㅂパッチム」を含む韓国語の単語は、それをカタカナ表記するにあたり必ず韓国語の素養を持つ者が介在しており、彼らは「ㅂパッチム」を何らかの形でカタカナ表記にも反映しようとするからである。そして、八田が「キンパ」の呼称が広まるきっかけとなったと推定する「カンナムキンパ」も在日コリアン系企業であることも２が有力であると考えるもう一つの理由である。その経営陣が「김밥」を看板に掲げるにあたり、古くから親しんできた呼称である「キンパ」を採用したのではないかと考える。

5. 結論

以上、韓国料理のカタカナ表記上のゆれ、特に「ㅂパッチム」の扱いについて、「김밥」が「キンパ」として定着した背景を中心に、様々な角度から検証を行った。本研究を通じての成果としては以下を挙げることができる。

1. 「김밥」のカタカナ表記として 15 種類が観察された。
2. 書籍・雑誌においては「キンパ」表記は少数派であり、特に 2010 年中盤以前に発行されたものの中にはまず見当たらない。「キンパ」表記が登場し、かつ優勢になるのは 2010 年代の中盤以降であり、それは若者を中心とする新しい韓流ブームの時期と重なる。
3. 少なくとも 30 ～ 40 年前には在日コリアン社会で「キンパ」という呼称・表記が使用されていた。
4. 「キンパ」の呼称および表記は韓国語が自然に簡略化されたというより、「ビビンバ」「クッパ」などの例に見られるように、言語末の「ㅂパッチム」を省略する「在日語」の特徴が大手企業によって採用された結果一般化した。

ただ、結論 4 については未だ推論の域を出ない部分が大きいことが否めず、引き続き「カンナムキンパ」や「セブンイレブン」など各企業による「キンパ」表記選択の経緯については当時の担当者へのインタビューなどを通じてさらに詳細に探る必要がある。また、在日コリアン社会での「キンパ」の使用事例についても、質量両面においてさらに広範囲かつ詳細な調査をする必要があり、これらは今後の課題としたい。本研究では数ある韓国料理のうち「김밥」に絞って調査を行ったが、「밥系統」の料理名のうち、「ビビンバ」や「クッパ」など、さらに古くから日本に定着しているものや、今はまだ日本では一般的ではないが、今後新しい「～밥」料理が入ってきたときにどのような表記が選択されるかについても、引き続き注目していきたい。

後注

1） 写真引用元 https://flo-nh.com/2021/04/03/sevenkinpa/ https://tokubai.co.jp/news/articles/4469

2）「김（kim）」は「海苔」、「밥（bap）」は「ご飯」という意味で、直訳すると「海苔ご飯」という意味の複合語である。「김밥」の起源については諸説あるが、日本統治時代に海苔巻きが持ち込まれて朝鮮民衆の間に広まったとする説が有力である。「김밥」とする表記は 1930 年代の新聞記事にも見受けられるが、一般的には「노리마끼（Norimakki）」の呼称が広く定着しており、1960 年代ごろから現在の「김밥」に置き換わった。

3）「김밥」の発音については 3.1. で詳しく解説する。

4） 本研究が対象とするのも、「外国語」としての韓国語ではなく、日本語の一部となった「外来語」としての韓国語である。

5） 柴田（2002）参照。

6） 須部（2013）参照。

7） 韓国語の単語のカタカナ表記が確認できる資料のうち最も古いものは、江戸時代に対馬の通詞養成のために作成された『交隣須知』『隣語大方』『韓語訓蒙』などの朝鮮語教材である。また日清・日露戦争期を中心に、朝鮮半島を新天地として進出しようとする日本人が増えたことにより、日本人向けの韓国語教材が多く発行された。それらの教材には韓国語にカタカナルビが振られているものが多く、各時代の日本人の音韻観や、韓国語の音声を知る上で非常に興味深い資料ではあるが、それらはあくまでも「外国語」としての韓国語であり、本研究の主眼である「外来語」としての韓国語受容とは一線を画すため、いずれ稿を改めて述べたい。

8） 韓国の人名・地名表記についての経緯は塩田（2002）参照。

9） ヤ行は子音と結合した場合「ャ」「ュ」「ョ」と表記（例：갸→キャ）、ワ行は子音と結合した場合原則として単母音として表記（例：괜→ケン）

10）（　）内は語中に現れた場合。以下、激音・濃音も同様。

11）ただし「디」「티」「띠」「지」はそれぞれ「ティ（ディ）」「ティ」「ッティ」「ジ」と表記。

12）韓国日報（2017 年 2 月 5 日）参照。

13）可能性としてはこれ以外にも、初声を清音とするか濁音とするかの問題もあるが、管見の限り「김밥」に関しては「김」の初声はすべて清音で表記されており、「밥」の初声に関しても 1 例のみを除いてすべて清音表記であったので、今回の考察の対象とはしない。

14）筆者訳。

15）韓国語テキストなどの語学関連書籍は今回の調査から除外した。

16）「キムパプ（韓国風海苔巻き）」のように複数の表記が併記されている場合は、その両方を集計対象としてカウントした。

17）「韓国海苔巻き」「韓国風海苔巻き」「韓国式海苔巻き」「韓国のり巻き」など複数のバリエー

ションがあったが、すべて「韓国海苔巻き」としてカウントした。

18）鉤括弧はカタカナが小文字表記されていることを表す。

19）ソウルナビ https://www.seoulnavi.com/、コネスト https://www.konest.com/、韓食生活 https://www.kansyoku-life.com/

20）本研究のためのインタビュー過程における発言。

21）「新・韓流」についての記述は、東洋経済オンライン（2015 年 2 月 13 日）の記事を参照。

22）株式会社東亜トレーディンググループが運営する「キンパ専門」フランチャイズチェーン。2015 年営業開始。現在首都圏の百貨店など中心に全国 13 店舗を展開する。など同業種では全国 1 位の規模である（2021 年 9 月 13 日現在）。

23）父親と母親ともに済州島出身の在日 1 世の間に生まれた三兄弟の三男。1977 年大阪生まれ。祖母と母が 1970 年から大阪生野区キムチ販売を始め、現在は長男が社長、次男が専務、三男の H 氏が工場長として家業のキムチ屋を引き継いでいる。

24）インタビューは 2021 年 8 月 10 日、大阪市平野区の H 氏の会社で約 1 時間行なった。

25）「ㅁパッチム」を省略せずに発音していたという証言や、以前は「海苔巻き」と呼んでいたという回答も複数あった。

26）在日コリアン社会での韓国語使用実態については金由美（2005）参照。

参考文献

권현주.（2006）. 일본어 가나（カナ）표기의 변화 양상에 관한 고찰 ── 겨울연가（冬のソナタ）에 나타난 한국어 종성음소를 중심으로 ──. 일본어문학, *28*, 3-23.

농림수산식품부 한식세계화추진팀.（2009）. 농식품부, 한식메뉴 외국어 표준표기안 마련.

NHK 放送文化研究所.（2005）. *NHK ことばのハンドブック 第2版*（2nd ed.）. 東京：NHK 出版

稲川右樹.（2021）. 日本における韓国語教育の歴史的経緯と現状. 帝塚山学院大学研究紀要, *2*.

小椋秀樹.（2013）. 大規模コーパスを活用した外来語表記のゆれの調査. *The Journal of Cultural Sciences*, *630*, 823-831.

小椋秀樹.（2017）. 書き言葉と話し言葉における外来語語末長音のゆれ. 言語資源活用ワークショップ発表論文集, *2*, 223-232.

金文姫.（2017）.「韓語覚書」の朝鮮語かな表記について ── 子音について ──. 大阪学院大学外国語論集, *73*, 23-47.

金由美.（2005）. *残存韓国語語彙の様相 ── ある在日 2・3 世の場合 ──*, *『在日コリアンの言語相』*（1st ed.）. 大阪：和泉書院 .

塩田雄大.（1992）. 韓国の人名・地名表記に関するノート ── 日本のマスコミの扱いと韓国の漢字使用の現状 ──. 放送研究と調査, *42*（4）.

柴田実.（2002）. 外来語カナ表記について. *NHK 放送文化研究所年報*, *47*, 221-257.

須部宗生．（2013）．カタカナ英語と和製英語 ── 最近の傾向を中心として ──．環境と経営：静岡産業大学論集，*19*（2），127–137.

単珊，& 白勢彩子．（2012）．現代日本語書き言葉均衡コーパスに基づく 外来語音の表記に関する試論．国立国語研究所コーパス日本語学ワークショップ予稿集，*1*，289–296.

中西久美子．（2005）．日本語学習者の携帯メールにおける「カタカナ韓国語」へのコードスイッチング．社会言語科学，*8*, 132–138.

許秀美．（2020）．鍵屋歴史館所蔵『講話』の朝鮮語かな表記について：子音を中心に．龍谷紀要，*41*（2），123–138.

松崎寛．（1992）．外来語音におけるゆれの類型：辞典類の表記を中心として．言語学論叢，*10*，43–56.

松崎寛．（1993）．外来語の表記のゆれに関する定量的研究．東北大学文学部日本語学科論集，*3*，83–94.

蔡京希，& 石塚令子．（2009）．한식 메뉴 일본어 표기 및 번역의 표준화에 대한 연구．日本語學研究，*25*, 249–274.

한국일보．（ 2017, February 5 ）．‘김밥 ’ 의 발음，어떻게 할 것인가．Retrieved from https://www.hankookilbo.com/News/Read/201702051060260167

Jr 東日本．（2018）．2017 年度 1 日あたりの駅別乗車人員ランキング．Retrieved from https://www.jreast.co.jp/passenger/2017.html

美味しいハナシ．（2021, May 28）．セブンのキンパを実食してみた（元韓国在住 . Retrieved from https://flo-nh.com/2021/04/03/sevenkinpa/

東洋経済オンライン．（2015，February 13）．大人が知らない、「新・韓流ブーム」の真相 韓流は、日常生活に溶け込むステージへ．Retrieved from https://toyokeizai.net/articles/-/60106

トクバイニュース．（2021, April 12）．ブームの予感！ 無印の売れすぎ「冷凍キンパ」の魅力を徹底解剖！．Retrieved from https://tokubai.co.jp/news/articles/4469

中村和希．（2014, January 25）．「ビビンバ」?「ピビンパ」?「ビビンパ」?，毎日ことば．Retrieved from https://mainichi-kotoba.jp/blog-20140125

日本放送協会．（2020）．NHK 放送ガイドライン 2020．Retrieved from https://www.nhk.or.jp/pr/keiei/bc-guideline/pdf/guideline2020.pdf

八田靖史．（2009, November 9）．韓国語のカタカナ表記分類表案を作成，韓食生活．Retrieved from https://www.kansyoku-life.com/2009/11/1052.html

文化庁．（1987, December 3）．外来語表記委員会の審議状況について，第 17 期国語審議会，第 4 回総会議事録．Retrieved from https://www.bunka.go.jp/kokugo_nihongo/sisaku/joho/joho/kakuki/17/sokai004/02.html

文化庁．（1991, June 28）．「外来語の表記」．内閣告示第二号．Retrieved from https://www.bunka.go.jp/kokugo_nihongo/sisaku/joho/joho/kijun/naikaku/gairai/index.html